

令和 7 年 3 月 6 日

保護者・地域の皆様  
関係各位

世田谷区立代田小学校  
校長 鈴木 忍

## 令和 6 年度 学校関係者評価委員会報告を受けて

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。令和 6 年度学校関係者評価結果を基にした「令和 6 年度学校関係者評価報告書」を学校関係者評価委員長 黒田 高史 様よりお示しいただきました。いただきました報告を基に、次のように改善方策を報告するとともに、教職員一同さらに努力してまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。

### 重点目標と項目別改善計画

◎ 重点目標 1	(1) 重点目標	互いのよさを認め合い、相手を尊重できる子どもの育成
	(2) 数値による指標	<ul style="list-style-type: none"><li>・相手や場に応じた挨拶をしている 83. 5%</li><li>・相手や場に応じた言葉遣いをしている 79. 4%</li><li>・授業中友達と話し合ったり、協力しあったりしている 83. 5%</li></ul>
	(3) 具現化の方策	<ul style="list-style-type: none"><li>・概ね 80% に達している。このことから、これまで行ってきた児童相互の対話を軸とした学習の推進、縦割り班活動（異学年交流）、学校生活全般における生活指導、学校生活アンケート、WebQ-U アセスメント調査を活用した児童の実態に基づいた指導、学級経営等の取組は継続していく。</li><li>・児童が主体となって活躍することができる学校行事の計画、代表委員会の児童が中心となって活動する機会等の計画も活用し、自他を敬愛する態度の育成に努めていく。</li><li>・学校生活を送るための基となる「代田小学校スタンダード」を作成し、それに基づいた指導を行っていく。</li></ul>
◎ 重点目標 2	(1) 重点目標	自らの課題に意欲をもって取り組み、自分の力を高めるこができる子どもの育成
	(2) 数値による指標	<ul style="list-style-type: none"><li>・授業では考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある 95. 9%</li><li>・自分の生き方や将来のことについて考える授業がある 72. 2%</li><li>・目標をもち、その実現に向けて努力している 74. 2%</li><li>・以前より自分で課題をもって学習し、できしたことやできないことを振り返っている 62. 9%</li></ul>

	(3) 具現化のための方策 ・背景 ・具体的な取り組み ・評価・検証方法 等	・特別活動の充実（委員会活動、縦割り班活動等）を図り高学年が主体となって活躍できる場を設定する。リーダーシップを発揮する中で、児童の非認知能力も育成していく。 ・どの教科においても「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、ねらいを明確に、振り返りを丁寧に AAR のサイクルで児童の力を高めていく。 ・ICT 機器の効果的な利活用を通して、児童一人一人の実態に応じた指導と学びの充実を図り、個別最適な学びの実現を図っていく。 ・体験的な活動やゲストティーチャーを招いての「本物に学ぶ」学習を経験と結び付け、自らの学びを深め、力を高めていける指導を展開していく。
◎ 重点目標3	(1) 重点目標  (2) 数値による指標  (3) 具現化のための方策 ・背景 ・具体的な取り組み ・評価・検証方法 等	自分の健康や体力に関心をもち、すすんで運動に取り組む子どもの育成  ・体育の授業や休み時間によく体を動かしている 74.2% ・子どもたちは体力向上を目指して取り組んでいる 84.2%  ・体力向上に関する取組として、引き続き、短なわ・持久走・長なわ週間マイチャレンジタイムを実施し、友達と楽しみながら体力向上を図ることができる機会とする。 ・体力テスト実施時に異学年や保護者の関わりを持つことで、自身の体力についての関心を高めるとともに、その結果を基に高めなければならない自己の体力について理解を深められるように指導を行う。
学校への提言項目に対する改善計画	(1) 提言項目  (2) 具現化のための方策 ・背景 ・具体的な取り組み ・評価・検証方法 等	キャリア教育と主体的な学びについて  ・キャリアパスポートのさらなる活用、パスポートでも「対話」を意識するなど、小学校から中学校への継続的な資料として認識されるように指導を行っていく。 ・「学び舎の日（学び舎合同研究会）」「あいさつ運動」「中学校部活動体験」「中学校授業体験」「保幼小交流」などの活動の更なる充実と、連携を図っていく。 ・本校では各学年の発達段階や学習内容に応じて、計画的にキャリア教育（各教科と関連付けた学習、ゲストティーチャーによる授業等）を行っている。本校の取組や学習がどのようにキャリア教育に位置付けられているのかを保護者・地域の方々に理解していただけるよう、学校だよりや HP 等での発信を行っていく。 ・「わからない」ということが少しでも減らせるよう、「学校評価だより」等の資料説明で、本校の教育についての理解を図っていく。
項目別の改善計画	(1) 提言項目  (2) 具現化のための方策・背景 ・具体的な取り組み ・評価・検証方法 等	情報共有と発信の強化  ・学び舎での交流の機会を低学年時から充実させ、HP でのタイムリーな情報発信で、保護者の関心を高められるようにしていく。 ・HP での情報や記事の更新回数を増やす（各学年・専科で週に 1 回、管理職・ICT 担当は 1 日に 1 回）ことで、より細やかな情報提供の機会となるようにしていく。 ・学校便り等に HP や評価便り等の QR コードを添付し、閲覧しやすくする。

